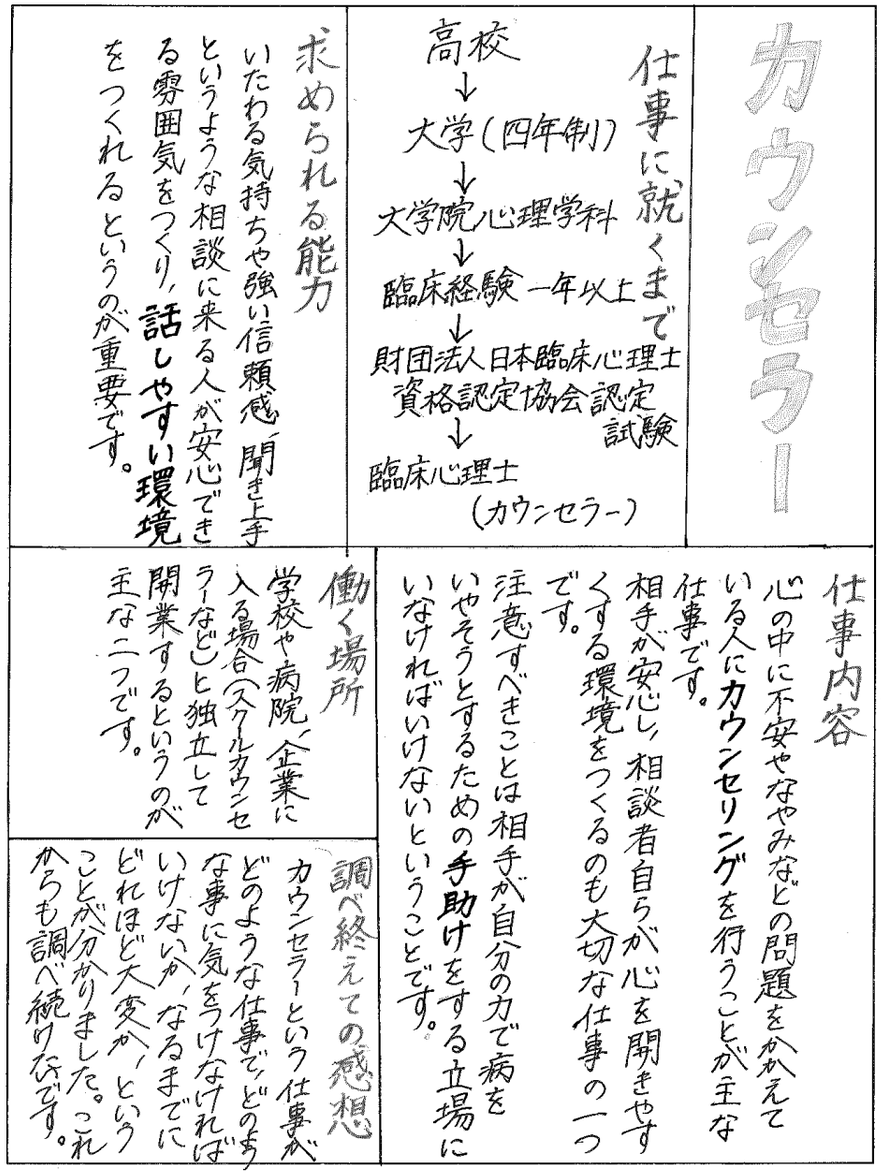
The best relationship

～最高の仲間たち～

第一学年通信No52

【キャリア学習４】職業調べ　みんなの作品　Ｎｏ２

☆ 文字の大きさも考えて、丁寧に読みやすくまとめたもの



但馬Ａ１：５つの市と町の名前

- 新温泉町（しんおんせん）
- 香美町　（かみ）
- 豊岡市　（とよおか）
- 養父市　（やぶ）
- 朝来市　（あさご）

但馬の昔話『おりゅう柳』

不思議な伝説が残る地名「高柳」の由来となった大柳

＊八鹿氷ノ山ＩＣ降りてすぐ＊

養父市八鹿町に、１本の柳の木が植えられています。その後ろにある大きな窪地いっぱいに根をはった柳の大木があったと伝えられており、「おりゅう柳」伝説の場所となっています。その大柳は「高柳」の地名の元になったとされています。

昔、高柳に『おりゅう』という女性が、夫と子どもと幸せに暮らしていました。

八鹿の栂山のふもとには大柳があり、おりゅうが長い髪をすくと、その柳の枝が風のない日でも音をたてて揺れていたそうです。

この頃京の都では後白河上皇の病気回復祈願のため、三十三間堂という大きな寺が建てられることになりました。そしてその材木にこの大柳が選ばれました。村人は、守り神の大柳を切りたくありませんでしたが、仕方なく切り倒し始めました。しかし次の日、驚いたことに切り口が見当たりません。再度切り始めましたが、やはり次の日には切り口がなくなっていました。そこで村人たちは寝ずの番をすることにしましたが、途中で眠ってしまいました。夜になると木の精たちが集まり、木くずで傷口をふさいでいるのでした。それから木くずを焼くと切り口はふさがらなくなってしまったそうです。やっと切り倒した柳を、京へ運ぼうとしますが、今度はびくとも動きません。

みんなが困り果てていた時、突然男の子が大柳の上によじ登りました。すると、大木はするすると動き始めます。おりゅうの子の『みどり丸』でした。

おりゅうは柳が切り倒されたその時刻に息を引きとっていました。結局、京へ７日かけ運ばれましたが、みどり丸が上に乗らないと柳の大木は動かなかったそうです。

おりゅうはやっぱり柳の木の精だったのでしょうか・・・。

似た話に、文楽の人形芝居として有名な「三十三間堂棟木由来」があります。